

健診センター 運用

実際の手順

1. 誘導支援（ゼクト）で表示された受診者を待ち時間が長い方から受診番号を呼び、検査室内に案内する
2. 氏名の確認を行う（フルネーム、生年月日）
3. IDを2つのバーコードリーダーで読ませると、超音波システムと超音波装置の両方に患者情報が表示される
4. 超音波システムで前回値を確認し検査開始する。
5. 肝嚢胞、SOL,GB polypなどの数値は装置からシステムに送信できるので専用ツールで計測する
6. 検査終了後、計測データがある場合はデータを送信する。
7. 送信した数値データはレポート画面の【数値取り込み】 ボタンで取り込みができる。複数回計測を行った場合は最後のデータが反映される
8. レポート入力後認証する。
9. 頸動脈が担当できない場合、受診者は外でまっもらう。
バインダーを検査室内の指定場所に置き、頸動脈おねがいしますと声をかける
手のあいた技師が検査に入る。